

事業報告書

1. 法人本部

1 法人内事業所と事業内容

○第二種社会福祉事業

事業所名	事業内容
介護老人保健施設ルミナス大府	入所により在宅復帰を目指し、リハビリを中心とした看護、介護サービスを提供している。 また、在宅の高齢者が通いによる身体機能の維持、向上に向けたサービスを提供している。
グループホーム・ルミナス大府	認知症を発症した高齢者の方々が、少人数で共同生活を営むための介護サービスを提供している。
認知症介護研究・研修大府センター	認知症介護に関する実践的な研究と認知症介護に関する指導者の養成を行っている。
障害者福祉施設サンサン大府	障がいのある方の社会生活の自立に向けた就労支援サービスを提供している。

○公益事業

事業所名	事業内容
訪問看護ステーションルミナス大府	自宅に看護師が出向き、医師の指示による医療処置等の看護ケアを行っている。

2 役員会等の開催

○理事会

日時	審議事項
R01.06.03	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度事業報告及び決算報告について 理事及び監事の選任候補者(案)について 定時評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R01.06.17	<ul style="list-style-type: none"> 理事長の選定について 常務理事の選定について 苦情解決第三者委員の承認について
R01.11.15	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度第1次補正予算(案)について 評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R02.02.20	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度第2次補正予算(案)について 令和2年度事業計画(案)及び予算(案)について 重要な役割を担う職員の選任(案)について 理事(常務理事)の選任候補者(案)について 評議員会の開催日時及び場所、議題等について

○評議員会

日 時	審 議 事 項
R01. 06. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度事業報告及び決算報告について ・理事及び監事の選任候補者(案)について
R01. 12. 05	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第 1 次補正予算 (案) について
R02. 03. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第 2 次補正予算 (案) について ・令和 2 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) について ・理事 (常務理事) の選任候補者 (案) について (開催の省略・書面意思表示)

3 監査の実施

監査名	日 時	実 施 内 容
年次監査	R01. 05. 20 R01. 05. 21	・平成 30 年度事業報告、決算報告の検査
定例監査	R01. 08. 09 R01. 11. 08 R02. 02. 07	・事業進捗状況検査、月次出納検査

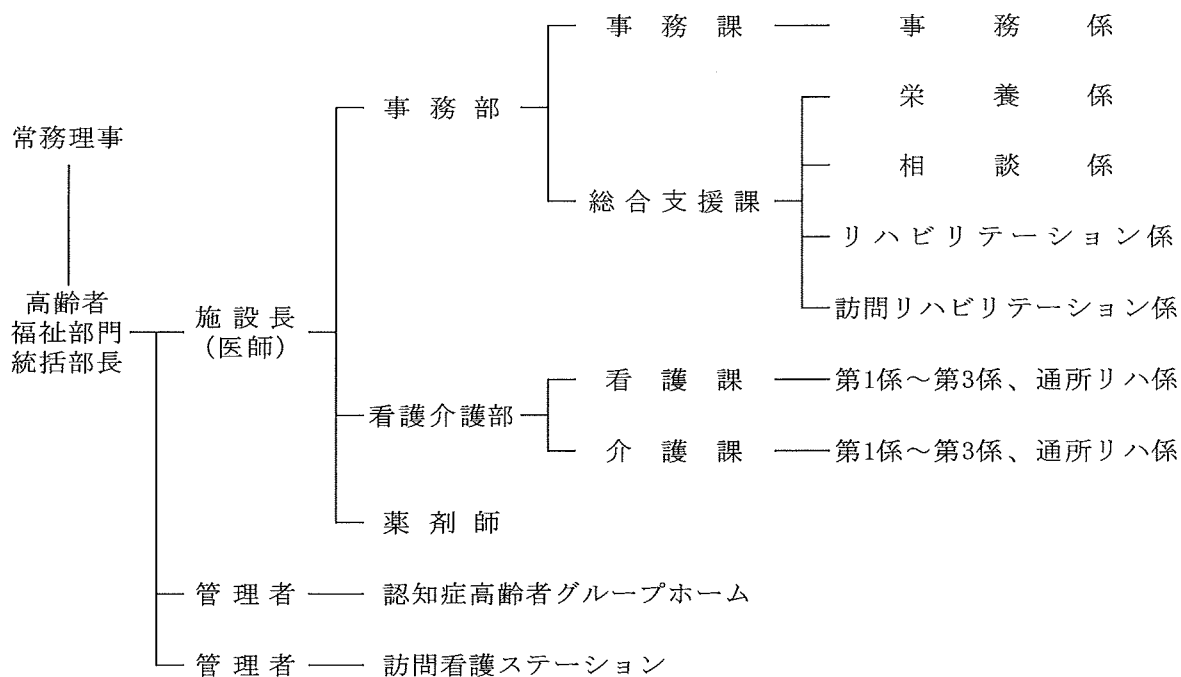
4 本部主催行事

行事名	日 時	人数等	実 施 内 容
辞令交付式	H31. 04. 01	11 名	新規採用職員並びに昇格職員に辞令交付を行い、永年勤続職員とともに懇親会を開催した。
永年勤続職員表彰式	H31. 04. 01	8 名	勤続期間が 10 年を経過した職員に、表彰状及び記念品を授与した。
新規採用職員研修	H30. 04. 02 H30. 04. 03	8 名	新規採用職員 (前年度採用職員も含む) に法人の成り立ち、法人の理念や社会人としての基本姿勢、職業倫理等について、法人内職員が講師となり基礎的な研修を行った。
職員の健康づくり研修	R01. 07. 12 R01. 07. 18	34 名	大府市保健センターの佐々木保健師をお招きして、腰痛対策ストレス予防について、グループワークや体操を交えて研修を行った。
精神・発達障害者しごとサポーター養成講座	R01. 09. 10 R01. 9. 12	30 名	ハローワーク刈谷の上村統括職業指導官他 2 名をお招きして、障害者の特性や障害者雇用に向けて私たちが配慮すべきことについて、研修を行った。

2. 介護老人保健施設ルミナス大府

1 組織（介護老人保健施設及び併設施設）

令和2年3月31日現在



2 職員実数

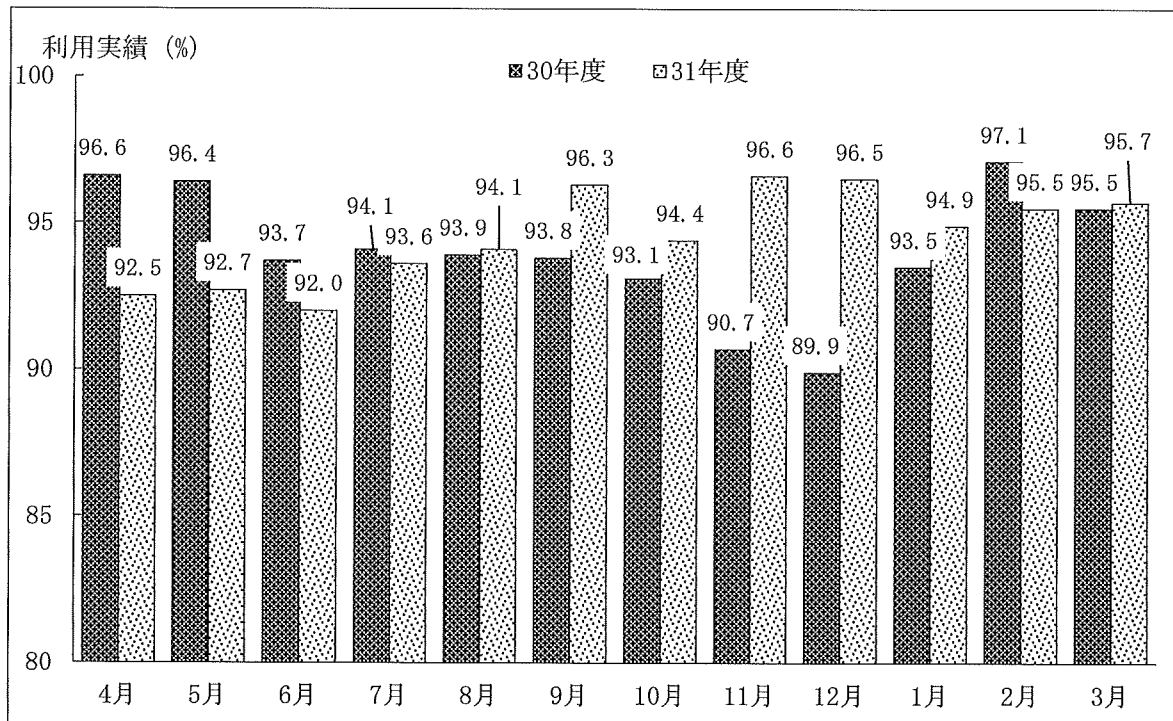
令和2年3月31日現在

	介護老人保健施設 (通所リハビリテーション・ 訪問リハビリテーションを含む)		訪問看護 ステーション		認知症高齢者 グループホーム	
	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準
施設長（管理者）	1	1	1	1	1	1
薬剤師	0.35	0.33				
看護職員	13.00	11	2.9	2.5	0.8	3
介護職員	47.75	27			4.6	
支援相談員	4.0	1				
作業・理学療法士	10.18	3				
介護支援専門員	1	1			0.1	実数
管理栄養士	1	1				
事務職員	3.63	実数	0.6	実数		
施設管理員	0.45	実数				
計	79.56	45.33	4.5	3.5	6.5	4

3 各サービス利用状況

(1) 長期入所利用状況

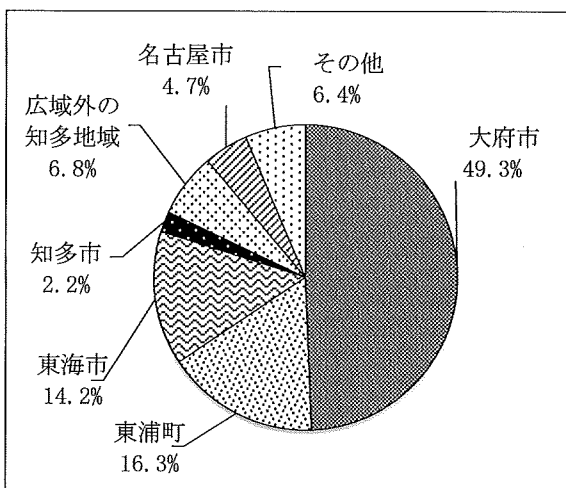
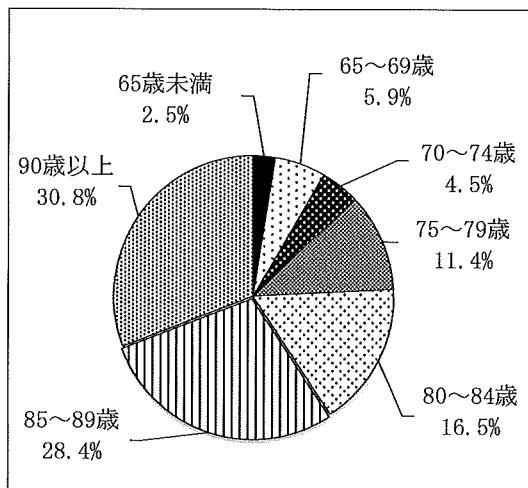
① 月別利用率 年間平均 94.6% (30年度 94.0%)



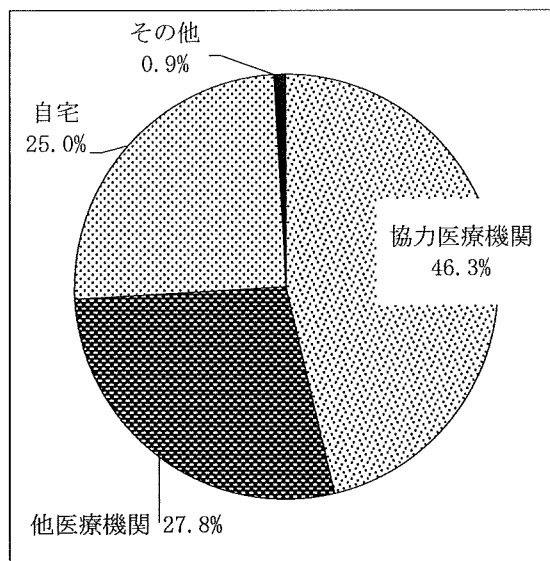
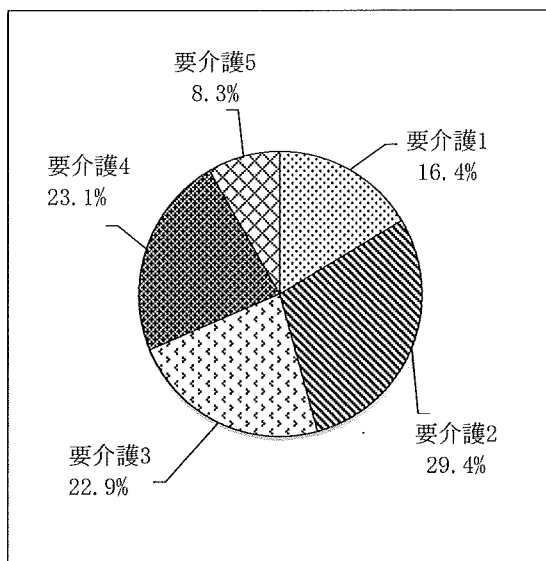
利用率は、30年度と比較して0.6%上昇し94.6%となり、微増の結果となりました。4月から6月は、やや利用率が低下しましたが、年間を通して安定的に運営することができました。元年度も入所・短期入所共に利用に繋がるよう営業活動を継続的に行いました。

元年度より長期入所の床数を97床から1床増加し98床で、一方短期入所の床数を3床から1床減少させ、2床で運営しました。

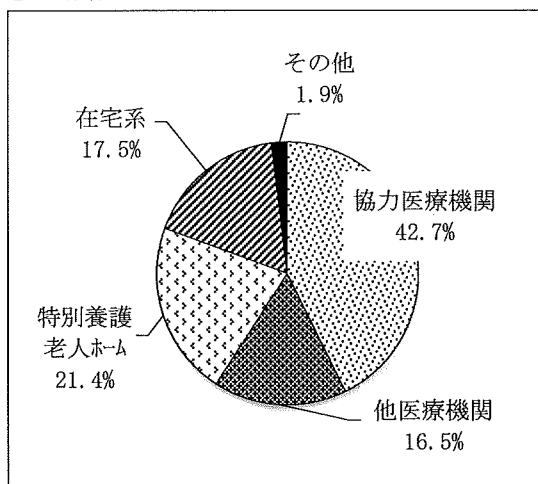
② 年齢 平均 85.6歳 (30年度 85.8歳) ③ 住所地



④ 介護度 平均介護度 2.9(30年度 2.8) ⑤入所経路

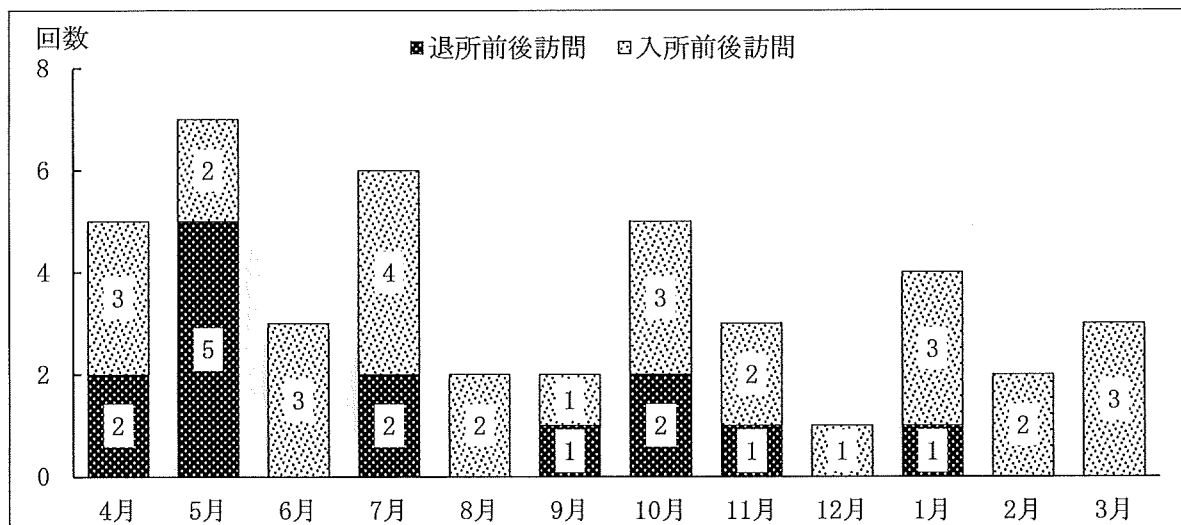


⑥退所先

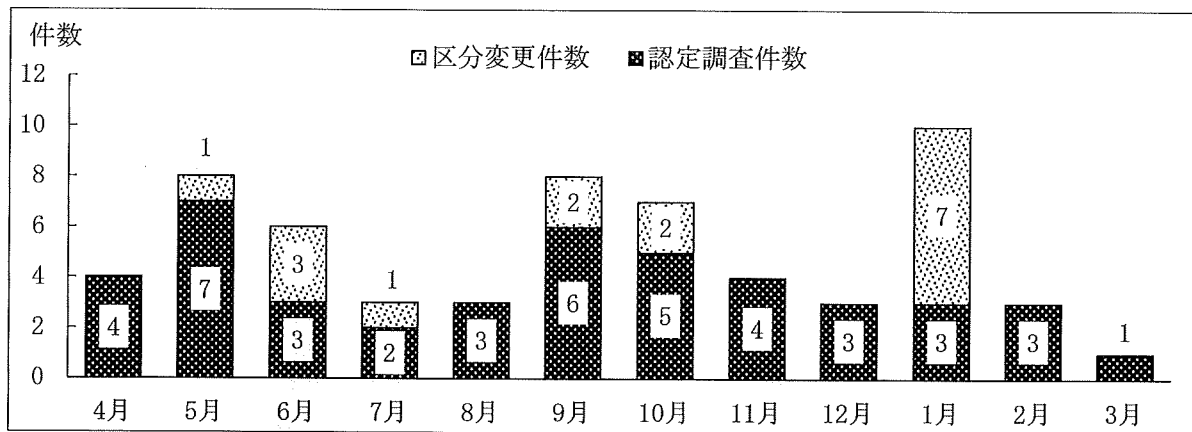


元年度も医療機関への退所が最も多く約6割を占めました。有料老人ホームを含めた在宅系への退所は17.5%になり、在宅復帰率は30年度から9.9%減少しました。

⑦入所前後・退所前後訪問指導 訪問回数 43件 (30年度 56件)



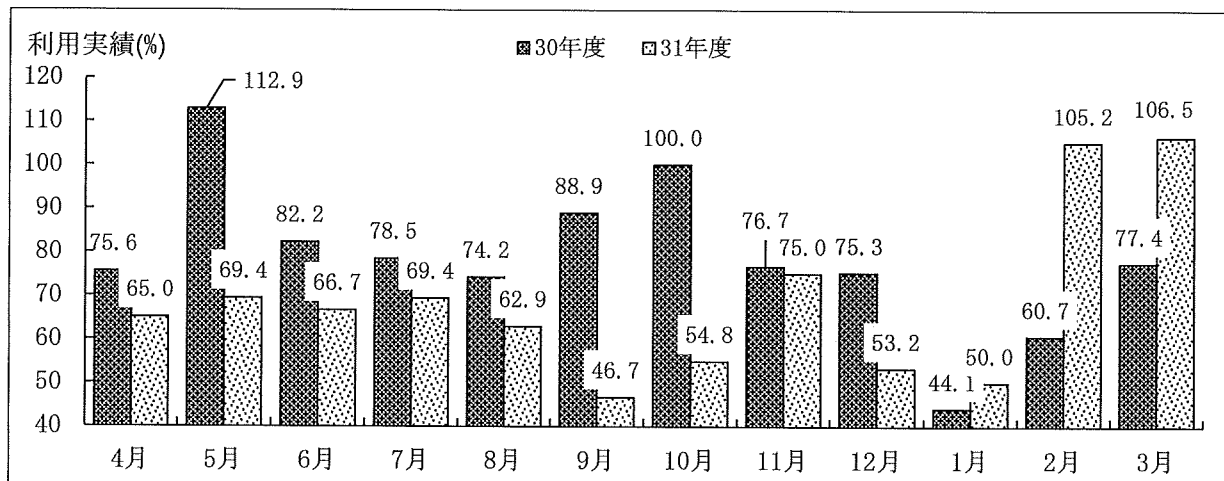
⑧区分変更・認定調査件数 60件 (30年度 65件)



認定の有効期間が、30年度から最長3年間となった為、認定調査件数は5件減少しました。軽度の新規入所者が増加しましたが、状態変化に応じた区分変更を随時行いました。

(2) 短期入所利用状況

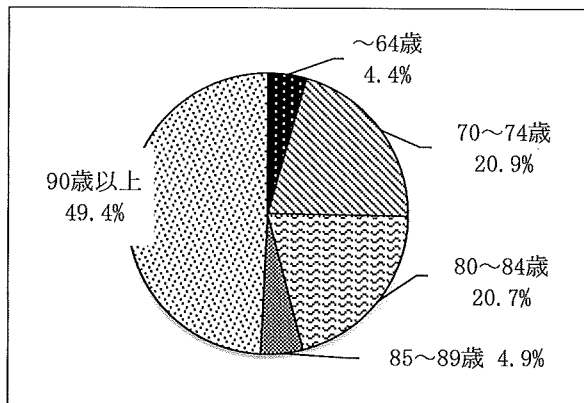
①各月利用率 年間利用率 68.6% (30年度 69.6%)



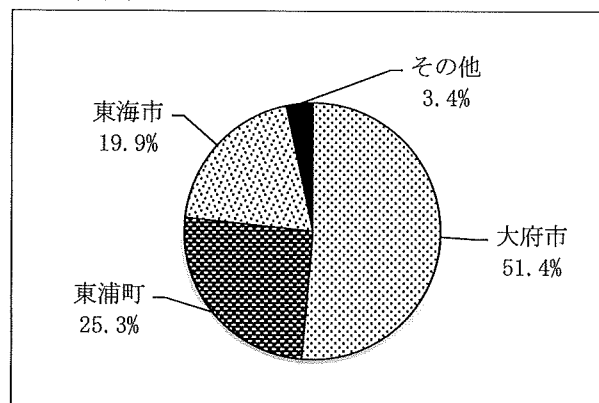
短期入所の床数を30年度より1床減少し、2床で運営しました。

利用実人員・延利用日数 21名 500日 (30年度 29名 840日)

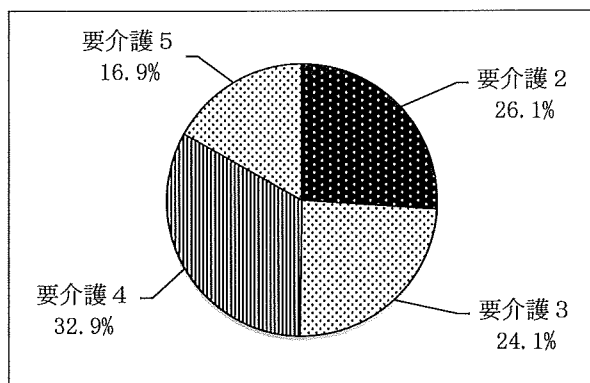
②年齢 平均 84.0歳 (30年度 85.7歳)



③住所地



④介護度 平均 3.4 (30年度 2.9)



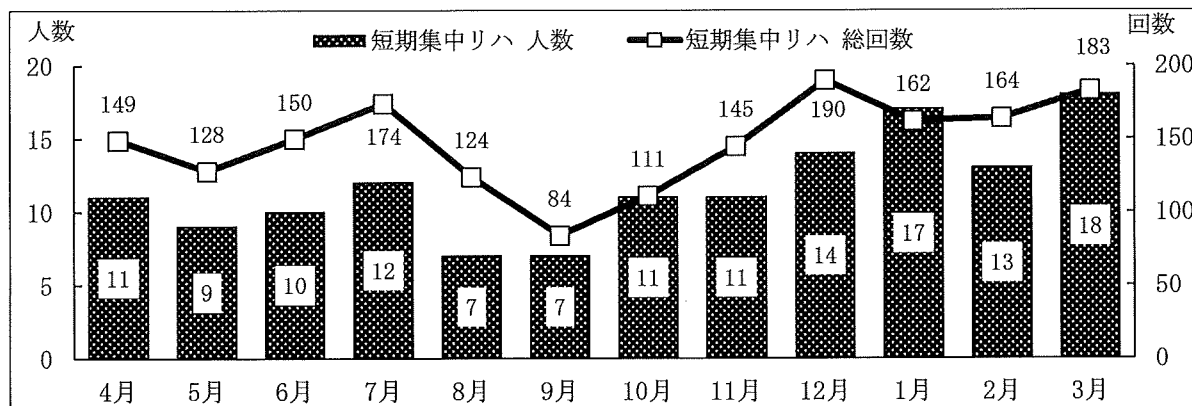
元年度は介護度が高いリピーターの利用者が多く利用されたため、平均介護度は、3.4 と長期入所よりも高い傾向となりました。

(3) リハビリテーション

①長期入所

短期集中リハビリテーション加算実施人数と実施回数

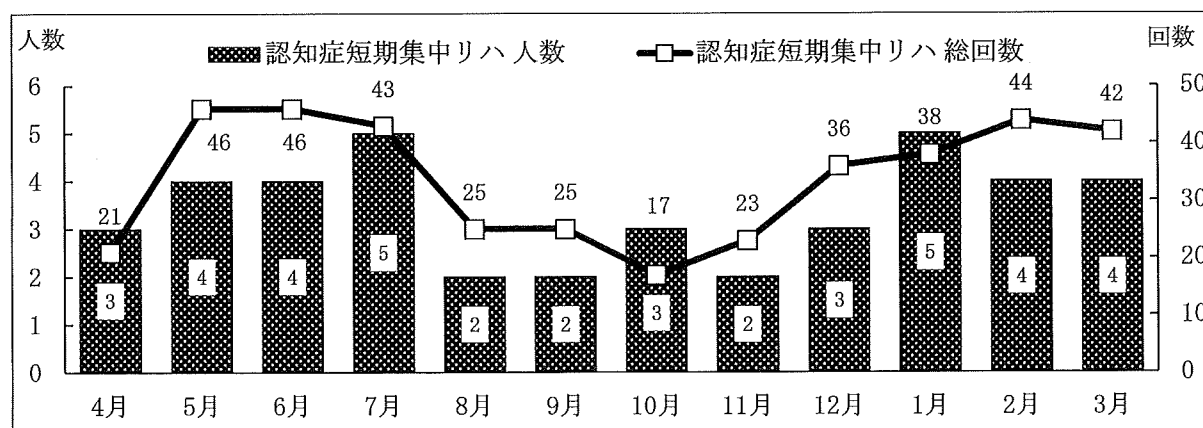
月平均人数 11.7 名 (30年度 6.9 名)



短期集中リハビリテーション加算は、元年度は対象者が大幅に増加し 11.7 名でした。月平均回数は 30 年度の 78.9 回より 68.2 回増加し 147.1 回でした。原因としては、対象者を在宅復帰の可能性のある利用者に限定せず、対象期間の利用者に幅広く実施した事が挙げられます。

認知症短期集中リハビリテーション加算実施人数と実施回数

月平均人数 3.4 名 (30年度 1.8 名)

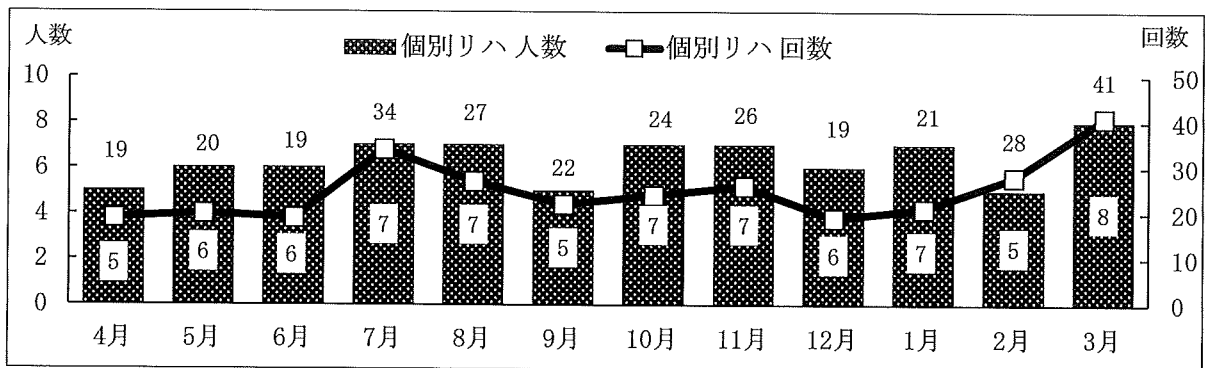


認知症短期集中リハビリテーション加算は、元年度の月平均は3.4名と30年度より1.6名増加しています。月平均の実施回数は30年度の19.0回より14.8回増加し33.8回でした。

② 短期入所者

短期入所者個別リハビリテーション加算実施人数と実施回数

月平均人数6.3名(30年度9.0名)



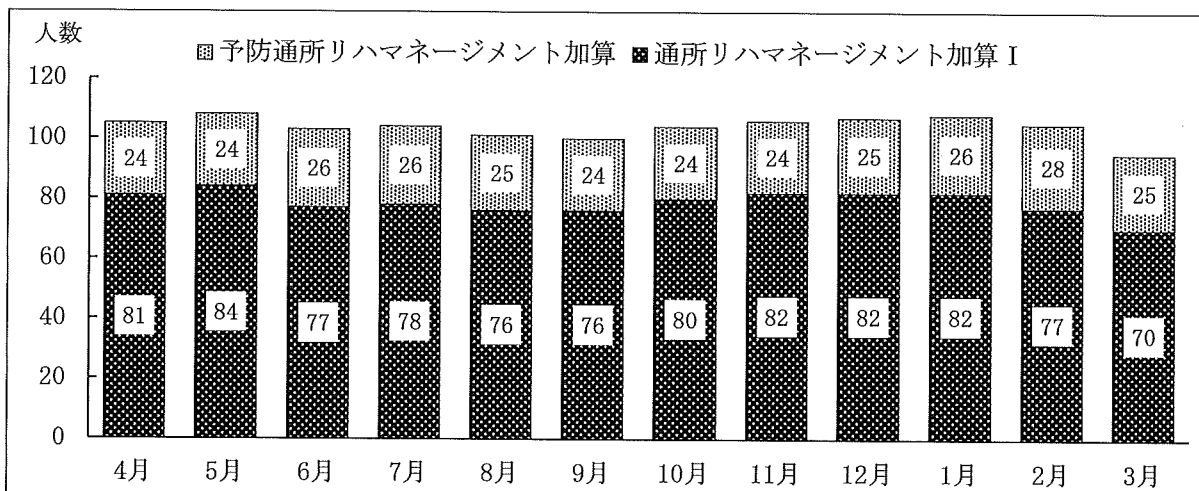
短期入所者への個別リハビリテーションは、対象人数が月平均6.3名で、30年度より2.7名減少し、月平均回数は23.1回と30年度の37.8回より14.7回減少しました。

原因としては、短期入所者の対象人数が減少した事が挙げられます。

③ 通所リハビリテーション

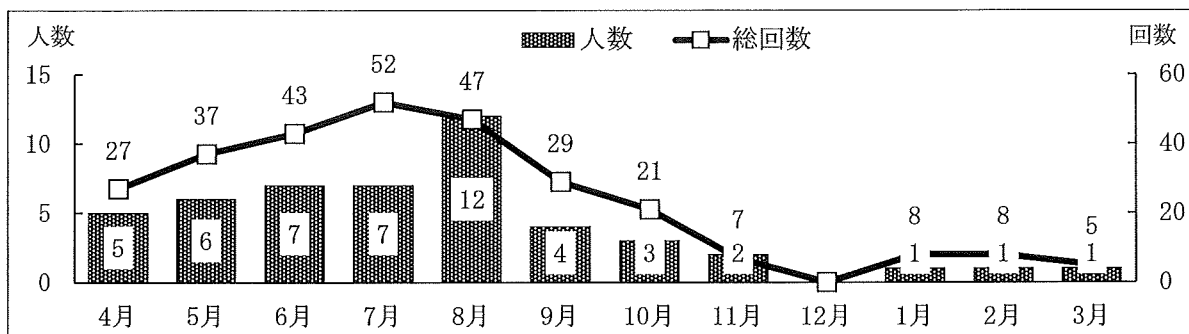
対象者平均78.8名/月(通所リハ)・25.1名/月(予防通所リハ)

(30年度64.5名/月・16.2名/月)



通所リハビリテーションマネージメント加算 I は月平均78.8名で、30年度より14.3名増加しました。予防通所リハビリテーションマネージメント加算は月平均25.1名で、30年度より8.9名増加しました。

④ 短期集中リハビリテーション



短期集中リハビリテーションについては、ご本人・家族の意向とケアマネジャーの支援計画に沿って実施しました。元年度は月平均 23.7 回で、30 年度 35.9 回より 12.2 回減少しました。

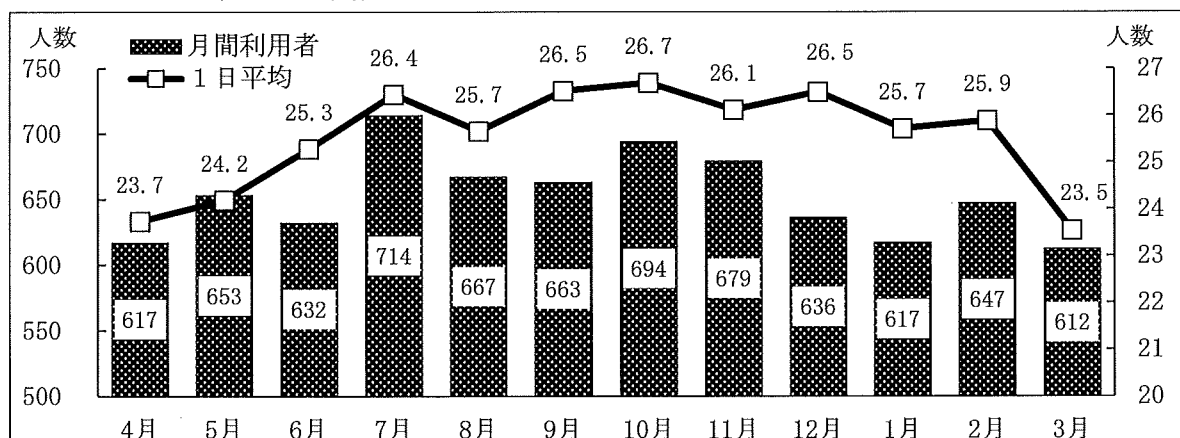
(4) 訪問リハビリテーション

元年度は長期入所者の在宅復帰支援の一環として訪問リハビリテーションを再開し、1 名（延 10 回）実施しました。

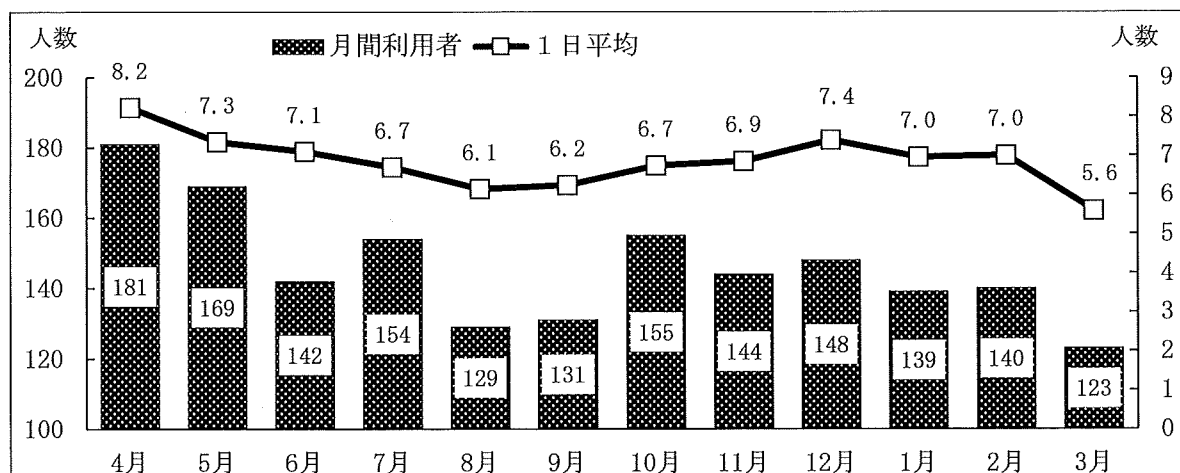
(5) 通所リハビリテーション（デイケア）

① 月別利用者数と 1 日平均利用者数 32.4 名／日（30 年度 25.5 名／日）

1 日コース（6～7 時間）



短時間コース（1～2 時間・2～3 時間）



年間の1日コース平均利用人数（1日あたり）は32.4名（30年度25.5名）、短時間コースは6.9名（30年度4.5名）でした。

3月は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、自主的に欠席する方が12名に上りました。

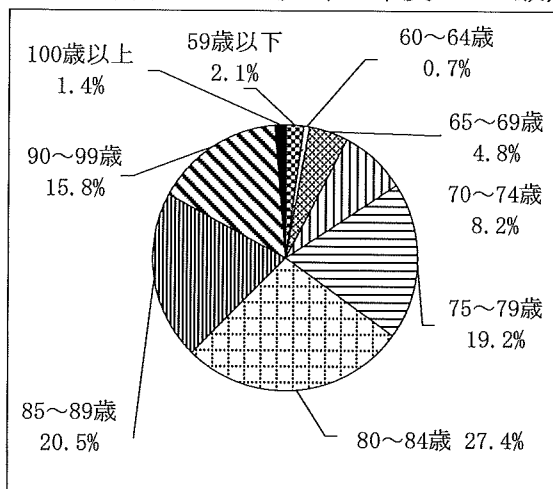
元年度の新規利用者は49名で、利用開始時から、週に複数回利用する利用者も多く、平均利用率は30年度より増加しました。

施設入所、入院や死亡などでの利用中止は30年度と変わらず38名でした。

②利用者の状況

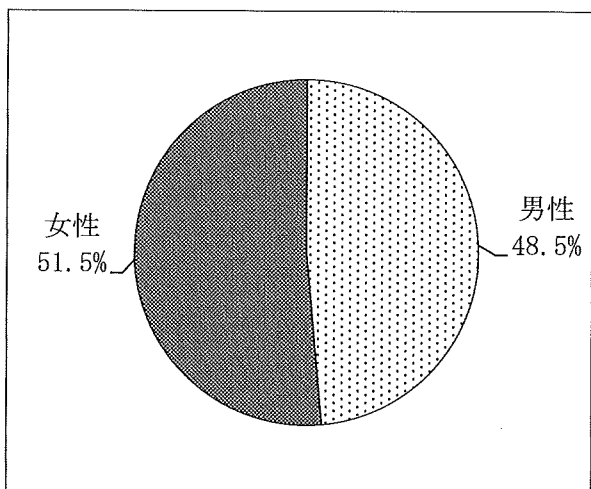
年齢構成

平均年齢 81.3歳（30年度82.4歳）



65歳未満もわずかに増加しました。75歳以上の利用者で8割以上を占めました。

性別



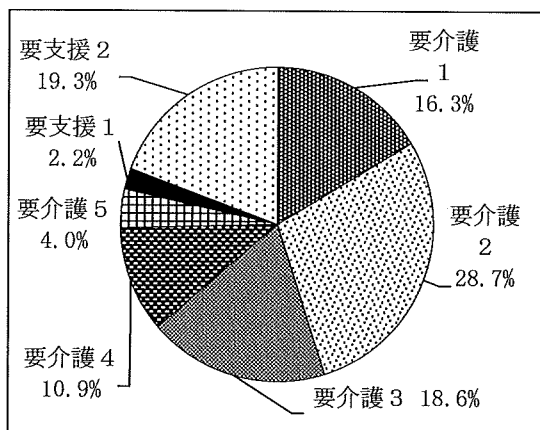
利用者の男女比は昨年と大きな変化は、ありませんでした。

短時間コースでは、男性の利用が高くなりました。

一日コース（男：女=43%：57%）

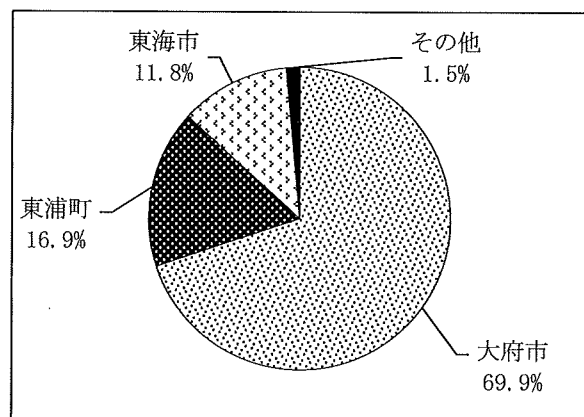
短時間コース（男：女=61%：39%）

介護度



※支援1を0.5 支援2を0.75で換算

住所地



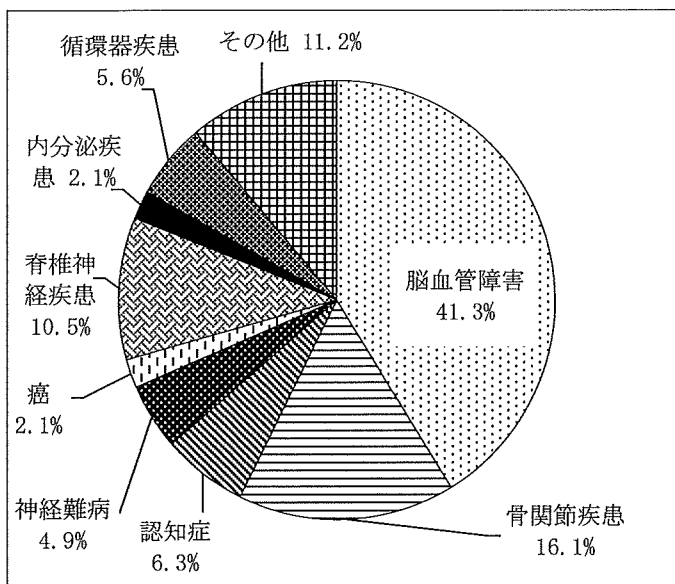
平均介護度は昨年と変わらず 2.08 でした。

要支援の方の割合が 21.5%で今年の 20.6%より上昇しました。

30 年度と比較して、地域別の割合に大きな変化は見られませんでした。

市内の利用者が約 7 割を占め、市内の地域別では、JR 西側の方が約 8 割を占めました。

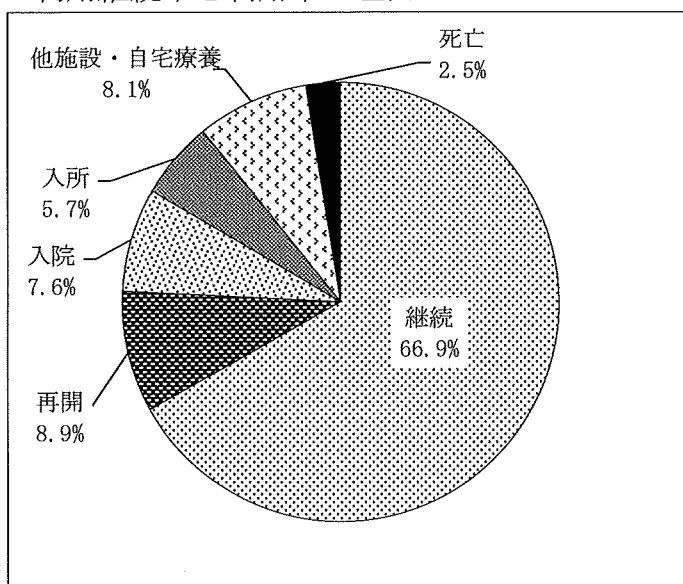
主疾患



脳血管障害が 41.3%、骨関節疾患など整形外科的疾患が 16.1%を占めました。

骨折の中には複数の箇所を骨折している方も多くみられました。

利用継続率と利用中止理由



中止理由は自宅療養・他施設利用が最も多くなりました。入院者数が減り、継続者数が増えたことが一因と考えられます。

一度も中断なく利用継続出来たのは 30 年度の 84 名から 105 名に増加しました。

4 サービスの維持・向上と良質なサービスの提供

(1) 看護

① 利用者の健康維持管理

転倒による骨折が4件発生し、そのうち3件は入院治療、1件は保存的療法となり、退院後は全件とも再入所しました。

身体拘束に関する指針の見直しと、高齢者虐待防止マニュアルの見直しを行い、認知症ケアマニュアルの改訂や、高齢者・行動症状の薬物療法ガイドラインの配布も併せて行いました。

② 感染症対策の徹底

入所者1名のインフルエンザ陽性者が出たため、マニュアルに従い、個室対応隔離を行い、施設内感染拡大は防止することができました。

2月上旬より新型コロナウイルス感染症の拡大の脅威が報道されたことに伴い、施設内の感染予防対策を順次行い、手すり・ドアノブの清掃、換気の徹底、職員の出勤前の体温測定・報告や、家族も含め流行地域への外出の自粛などの注意喚起に努めました。面会・外出泊の禁止、ボランティア受け入れの休止、通所リハビリテーション利用者の乗車前の検温測定等について徹底に努めました。

(2) 介護

① ケアの質を高め安心できる施設生活の提供

- ・施設内研修：応急救護、権利擁護、事故防止、感染予防、認知症研修
- ・施設外研修：認知症実践者研修、咀嚼・嚥下、口腔ケア、権利擁護
- ・デイケアと入所フロアとの協力体制を強化し、入浴業務、他フロアへの応援を継続し、業務の効率化を図りました。
- ・職員の自己点検シートを配布し、結果に基づきサービス向上へ繋げました
- ・年間を通して行事を実施しました。
花見（4月）七夕会（7月）夏まつり（8月）敬老会（9月）芸能祭（10月）餅つき（1月）
- ・各フロアでは毎日のレクリエーションとして運動、頭の体操等内容を変えて実施しました。
- ・施設内研究発表会を実施しました。

② 認知症ケアの質の向上

- ・認知症介護実践者研修へ参加し、施設内認知症研修を実施しました。
- ・認知症介護研究・研修大府センターの協力を得て、BPSDスポット調査を各フロアで実施しました。（5件）

- ・デイケアの研究を認知症介護研究・研修大府センターと連携して実施しました。
- ・月1回のフロア会議において、認知症ケアの現状と課題について、スタッフ間の共有を図りました。

③ リスクマネジメントの徹底

- ・毎食前後及び排泄後の手指消毒や環境整備の強化を実施しました。
- ・新型コロナ対策。
- ・事故防止研修、感染研修を施設内で実施。
- ・元年度 ヒヤリハット件数 125件 (30年度 124件)
- ・事故による骨折 4件、

④ サービス評価からの課題

- ・元年度もご家族への満足度調査を実施しました。
- ・日常的なサービス・対応・環境等に関するアンケート調査を実施しました。
(無記名方式にて配布・回収) 回収率 フロア:84.5% デイケア:80.0%
- ・満足度が高い意見が大半でしたが、リハビリテーションやレクリエーションの回数を増やしてほしい等の意見がありました。集計結果・個別意見を各フロアで周知し、改善対策を検討・実施しました。

(3) 栄養

① 適切な食事提供に努めました。

- ・入所者に対して栄養スクリーニングを実施し、低栄養状態のリスクがある入所者を把握し、栄養計画に反映させました。(入所者:108名)
- ・栄養ケア計画に基づいて、入所者ごとに対応した食事の提供や、経管栄養法による栄養補給を行うとともに、入所者にあわせた食事内容を多職種協働により取り組みを行いました。
- ・医師の指示に基づき、経口により食事を摂取している方で、著しい摂食障害があり誤嚥が認められる入所者に対して、経口維持計画書を作成しました。
(経口維持加算(I):5名)
- ・低栄養リスクの高い入所者に対して、低栄養状態を改善する為の計画を作成し加算をとりました。(15名)

② 衛生管理に努めました。

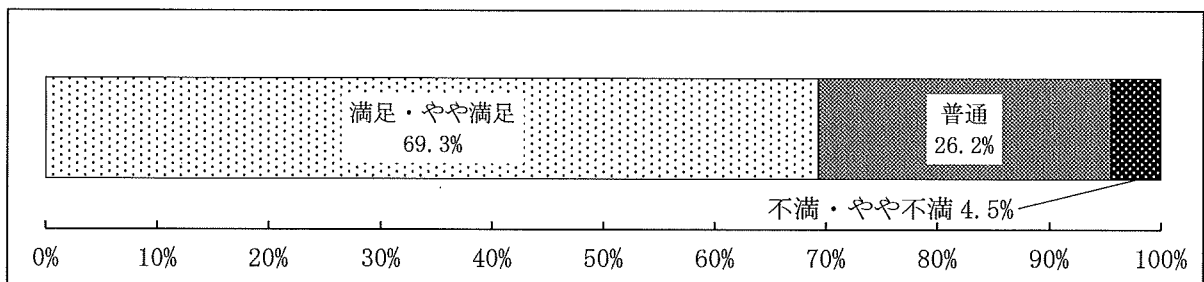
- ・個人衛生管理、施設設備管理、原材料の取扱管理、器具類管理、食品取扱管理、廃棄物管理等については、点検表を設け管理を行いました。主なものとして、使用水の残留塩素濃度(毎日、始業時・終業時)の測定、毎食ごとの加熱食品の中心温度の測定等39項目について行いました。

- ・食中毒予防として、検収場での品質・鮮度・品温・異物混入等の点検、調理器具の洗浄・消毒・乾燥等、厨房スタッフへの教育を徹底しました。（5、12月実施）

③ 食事委員会の開催及び嗜好調査を行いました。

- ・委員会は、職員及び給食委託業者で組織し、食事サービス向上に向けて、月1回開催しました。
- ・月1回の行事食、週1回の選択食を実施しました。
- ・嗜好調査を8月に実施しました。

対象者 130 名、回答率 97.7%（本人回答 53.1%、聞き取り 46.9%）



④ 提供食数

食種ごとの食数表（令和2年3月・昼食の平均）

主 食							副 食					
米飯	軟飯	全粥	粥ミキサー	粥ソフト	パン	合計	常食	一口大	刻み	ミキサー	ソフト	合計
58	28	31	1	1	1	120	51	41	23	2	3	120

5 ルミナス大府夏まつり

令和元年8月24日（土）14：00～16：00

テーマを「令和の夏を楽しもう」としました。

石ヶ瀬太鼓、大府ばやし・小唄保存会、藤田医科大学吹奏楽部による演奏や踊りにより、まつりを盛り上げていただきました。

当日は、来賓、入所者家族を含む約 300 名の来場者を迎え、地域ボランティア、学生ボランティア、イベント協力団体等多くの皆様による協力・支援により開催できました。

6 地域貢献事業

① 「カフェ くちなし」として開催しました。(30年度 482名・12回開催)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	39	43	33	39	30	36	27	21	28	48	36	中止	380

参加者については、当事者及び介護者が94名、一般住民が70名でした。

カフェくちなしの内容

カフェタイム、お話等、ミニコンサート（ピアノ演奏）、体操等

お話等の内容

月	内 容	講 師 等
4月	転倒予防について	ルミナス大府 理学療法士
5月	食を楽しむ会（五平餅作り）	
6月	介護保険について	ルミナス大府 相談員
7月	コンサート	佐竹さん（カフェくちなし参加者）
8月	子どもマジック	吉田児童老人福祉センター 子どもマジッククラブ マジックフレンズ
9月	認知症について	齊藤さん（認知症介護研究・研修大府センター）
10月	薬について	安井さん（吉川ホーム薬局薬剤師）
11月	秋の食を楽しむ会（ネギ焼き作り）	
12月	クリスマス会 （クリスマスリース作り）	
1月	子ども落語	笑学生落語クラブ
2月	マジックショー	ピエール・マコトさん（サンサン大府職員）
3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	

※第2日曜日 午前10時～正午開催（8月・2月は第3日曜日）

② かがやき塾（介護予防教室）

30年度に引き続き、市立吉田公民館の企業等連携講座として共催し、市民・地域住民に向け、開催しました。参加人員：100名

月 日	内 容	講 師
11/7(木)	健康な体をつくろう ～今の自分を知りましょう～	理学療法士 澤本友里
11/21(木)	知って得する 介護保険制度と成年後見制度	相談員 田中真弥

12/5(木)	認知症をよく知ろう	介護係長 石橋浩朗 介護係長 深谷健司
12/19(木)	誰でもできる感染症対策	看護師 西郷清美

③ 相続問題等相談会

相続・遺言などの問題についての無料相談会を開催しました。

令和2年1月17日(金)開催 7名参加

相談員 4名

税理士 細田章洋氏(仁至会監事)、司法書士 市野雷太氏、
ファイナンシャルプランナー 後藤明氏、行政書士 久野将英氏

7 防災防火対策の取り組み

① 防災訓練を2回(全体訓練10/17、夜間想定訓練3/10)実施しました。

元年度の全体訓練は、支援グループ、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の協力を得て実施しました。

② 支援グループ総会を全体訓練に併せて実施しました。

8 地域連携事業

① 地域ボランティア

喫茶、習字、煎茶、詩吟、カラオケ、図書の読み聞かせ、草取り、エレクトーン演奏等16団体多くの方々にご支援・ご協力をいただき、入所者・利用者の方の楽しみ、安らぎに繋がりました。

元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月より休止としました。

② 福祉健康フェア

令和元年9月22日(日)に開催された、大府市福祉・健康フェアに出展し、施設の概要や入所者・利用者の作品を展示し、施設のPRを行いました。

③ ウェルネスバレー推進協議会

大府市・東浦町が主催するウェルネスバレー推進協議会、同運営委員会に参加しました。また、同協議会が主催する各種行事に参加しました。

9 実習生の受け入れ

看護 5/20～5/21 桃陵高校専攻科 4名

	5/23～5/24	同上	4名
	1/8・12	人間環境大学 大学院	2名
リハビリ	9/18～9/20	名古屋大学 (OT)	1名
	2/10～2/14	日本福祉大学 (OT)	1名
介護	8/20～8/24	教員志望者実習 (至学館大学)	4名
	9/23～10/26	日本福祉大学	2名
	10/21～10/25	桃陵高校ヒューマンケア科	2名
	10/28～11/1	桃陵高校ヒューマンケア科	2名
栄養	7/8～7/12	名古屋文理大学	2名
	8/19～8/23	中部大学	2名
	8/26～8/30	同上	2名
	3/2～3/6	同上	2名
	3/9～3/13	同上	1名
職場体験	7/25～7/26	大府南中	3名
	7/29～7/30	同上	4名
	8/1～8/2	同上	4名
	8/5～8/9	東浦中	1名
	8/5～8/9	大府西中	2名

10 企業との連携

① 株式会社LIXILの「排便管理システム」について実証実験を行いました。

- ・ 期間 令和元年9月～2年3月
- ・ 設置か所 3階・4階 各2か所
- ・ 内容

入所者の中には排便したことを忘れてしまう方がいる。その方の適切な排便管理を行うため、便器に設置したセンサーにより、トイレ使用を職員に自動的に通報することにより、速やかに確認できる。

3. 訪問看護ステーションルミナス大府

1 訪問状況

- (1) 利用者総数 79名 (30年度 80名)
 新規利用者数 31名 (30年度 29名)
 終了利用者数 35名 (30年度 32名)

(2) 月別訪問状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
訪問件数	251	262	253	324	309	300	342	293	298	268	266	296	3,462
利用者数	49	46	49	53	54	53	54	53	50	47	46	47	601
新規利用者数	2	1	3	5	4	3	3	2	3	2	1	2	31
終了利用者数	3	2	0	2	4	3	2	3	6	3	2	5	35

- ・月平均利用者数 50.1名 (30年度 52.7名)
- ・月平均訪問件数 288.5件 (30年度 307.3件)
- ・介護保険訪問件数 要介護 2,375件 (68.6%) 予防介護 280件 (8.1%)
- ・医療保険訪問件数 807件 (23.3%)

同行訪問その他の訪問が206件あり、延べ訪問件数は3,668件でした。

非常勤職員が5月に1名退職、10月に1名採用しました。

(採用者は3か月間同行研修訪問)

常勤職員3名と非常勤職員2名の計5名常勤換算3.87名(同行訪問期間含む)で稼働しました。

(3) 24時間連絡体制の状況 (年間総数)

緊急時対応訪問 159件 (30年度 81件)

利用者との電話相談

営業時間外 156件 (30年度 122件)

営業時間内 457件 (30年度 416件)

営業時間外その他機関との連絡調整 71件 (30年度 70件)

介護保険緊急時加算契約者 51名 91.1% (30年度 55名 80.6%)

(4) 地区別

大府市内	東海市	東浦町	知多市
51 (64.6%)	16 (20.3%)	11 (13.9%)	1 (1.3%)

東海市が若干減少しました。

(5) 新規依頼経路 (対象 31名)

ケアマネジャー	病院退院支援室看護師	利用者・家族	医師	高齢者相談支援センター
19 (55.2%)	6 (27.6%)	3 (10.3%)	2 (3.4%)	1 (3.4%)

利用者ご家族よりご相談を受け介入するケースが3名ありました。

(6) 施設への訪問

小規模多機能ホーム1名、グループホーム1名 計2名の施設への訪問をしました。グループホームと協同して看取りの支援も行いました。

2 利用者状況

(1) 適用保険別

総数	合計	介護保険		医療保険
		56		
		介護	予防	
	79	50	6	23
男性	41	26	2	13
女性	38	24	4	10

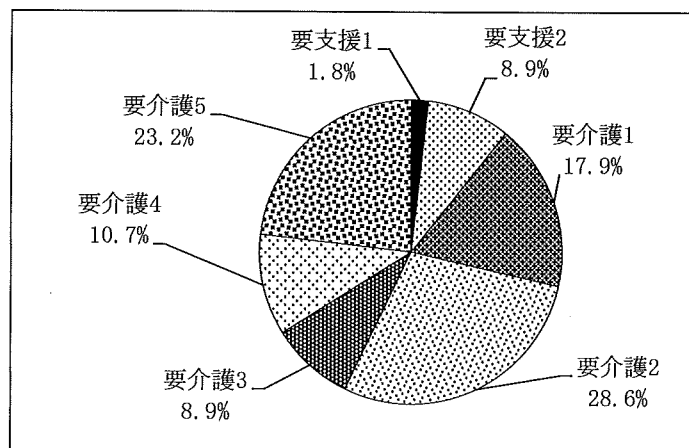
介護保険 70.9%
(30年度 77.5%)
医療保険 29.1%
(30年度 22.5%)

医療保険利用者が増加し、28年度以前のように約3割となりました。

(2) 要介護度別

(介護保険対象 56名)

介護度	名数
要支援1	1
要支援2	5
要介護1	10
要介護2	16
要介護3	5
要介護4	6
要介護5	13
計	56



介護保険利用者 (50名 予防除く)

平均要介護度 2.9 (30年度 2.9)

平均要介護度は30年度と同程度でした。30年度同様に要介護1、2、5の利用者が多く、要介護3、4の利用者は、さらに減少という状況でした。

(3) 認知症高齢者と高齢者との日常生活自立度による分類 (対象 77名)

	なし	I	II	III	IV	計
J	14	8	0	0	0	22
A	8	5	5	2	0	20
B	7	1	7	5	1	21
C	0	0	1	3	10	14
計	29	14	13	10	11	77

日常生活自立度「寝たきり B・C」 45.5% (30年度 53.8%)

認知症自立度「III・IV 中等～重度」 27.3% (30年度 28.2%)

「認知症なし」 37.7% (30年度 39.7%)

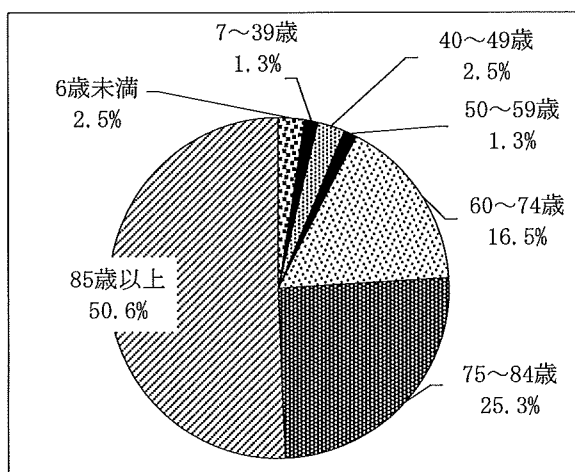
日常生活自立度「自立」「認知症なし」 18.2% (30年度 12.8%)

日常生活自立度「J自立」・認知症「なし」の医療処置をメインとして必要とされる利用者が14名と最も多く、日常生活自立度「C寝たきり」・認知症「IV」のすべてに介護を必要とされる利用者が10名と続きました。

(4) 年齢別・男女別

単位：名

		計	6歳未満	7～39歳	40～49歳	50～59歳	60～74歳	75～84歳	85歳以上
男	介護保険	28	0	0	0	0	6	6	16
	医療保険	13	1	1	0	0	3	3	5
女	介護保険	28	0	0	0	0	2	10	16
	医療保険	10	1	0	2	1	2	1	3
計	介護保険	56	0	0	0	0	8	23	31
	医療保険	23	2	1	0	1	6	5	3



平均年齢 79.61±17.72歳

(30年度平均 80.18±16.52歳)

介護保険利用者 84.70±8.97歳

医療保険利用者 63.20±26.85歳

男女比 男性 51.90%

女性 48.10%

75歳以上の後期高齢者 78.5%

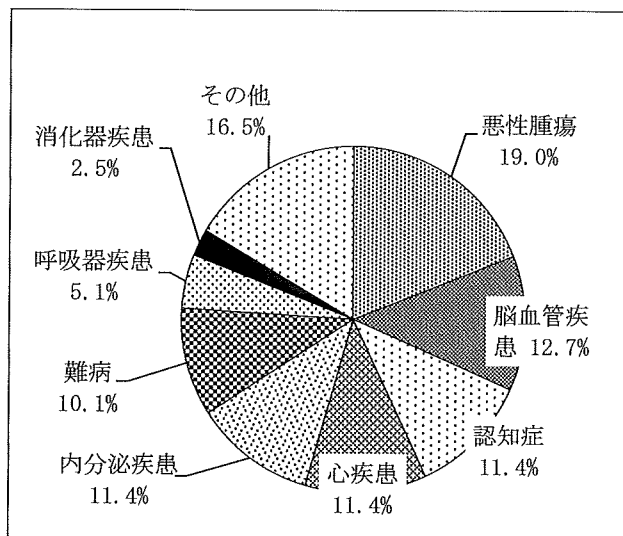
(30年度後期高齢者 77.5%)

4歳児1名 5歳児1名 20歳代1名に対応しました。

平均年齢は30年度より若干下がりましたが、85歳以上の利用率は増加しました。

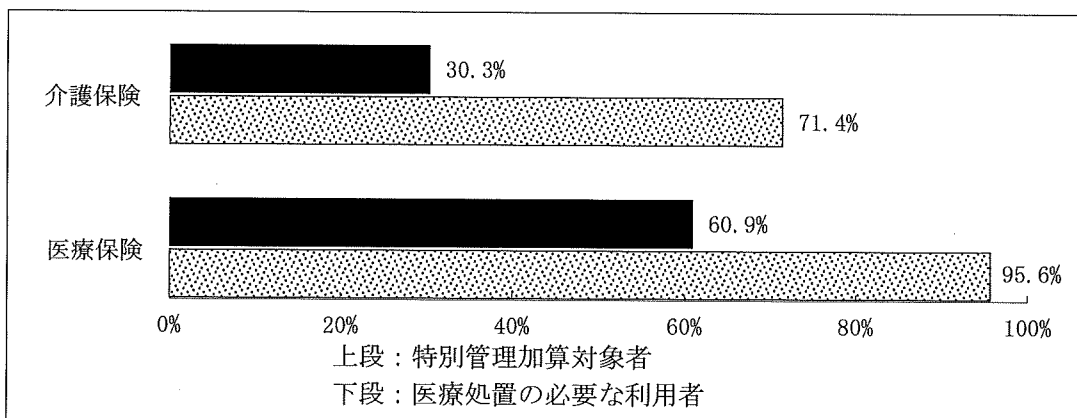
(5) 疾患別

主病名	計	男	女
悪性腫瘍	15	10	5
脳血管疾患	10	4	6
認知症	9	4	5
心疾患	9	4	5
内分泌疾患	9	5	4
難病	8	3	5
呼吸器疾患	4	4	0
消化器疾患	2	2	0
その他	13	5	8
計	79	41	38



悪性腫瘍の利用者が最も多く、ついで脳血管疾患でした。傾向は 30 年度と変化はありませんでした。内分泌疾患（特に糖尿病）の利用者が若干増加傾向でした。

(6) 適用保険別医療処置の必要な利用者・特別管理加算対象者の割合



医療処置内容

	医療保険	介護保険	合計
服薬管理等の実施	5	16	21
点滴・注射の実施・管理（インシュリン含む）	7	9	16
I V H	1	0	1
ターミナルケア	12	3	15
麻薬・薬剤を用いた疼痛管理	6	1	7
がん化学療法の管理	2	0	2
浣腸・摘便	5	11	16
褥創以外の創傷部の処置	4	12	16
褥瘡	4	9	13
採血等の検体採取（BS 含む）	2	9	11

吸引	4	3	7
気管内吸引	1	0	1
胃瘻による経管栄養法の実施、管理	2	3	5
人工肛門・人工膀胱の管理	2	3	5
膀胱留置カテーテルの交換・管理	1	4	5
自己導尿の指導、管理	1	5	6
在宅酸素療法の指導・援助	4	1	5
ドレーンチューブの管理	3	4	7
気管カニューレの交換、管理	1	0	1
吸入	2	3	5
エンゼルケア	5	3	8
合 計	74	99	173

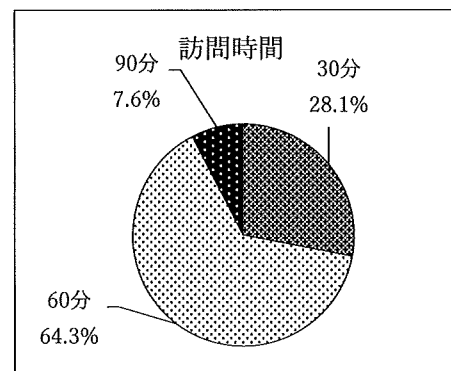
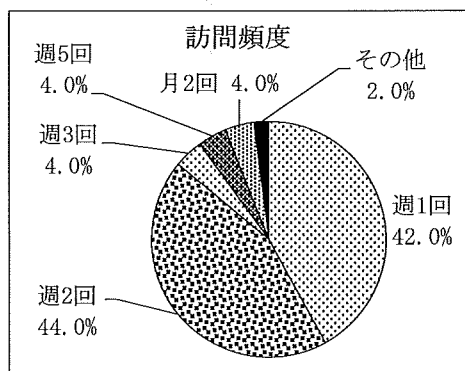
介護保険対象者も特別管理加算の対象以外の医療処置を多く必要とされています。処置の内容に大きく変化はありませんでした。

(7) 利用状況

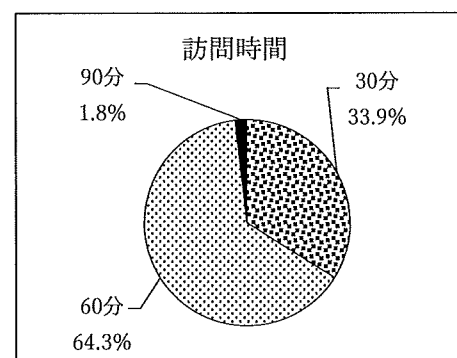
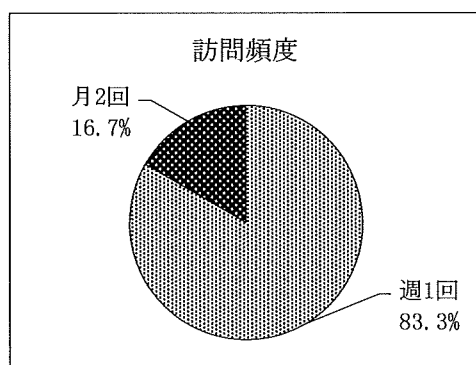
利用者一名あたりの月平均利用回数 5.8回 (30年度 5.8回)

- ・介護保険利用者 5.7回 (30年度 5.8回)
- ・予防介護保険利用者 4.0回 (30年度 4.3回)
- ・医療保険利用者 6.9回 (30年度 7.3回)

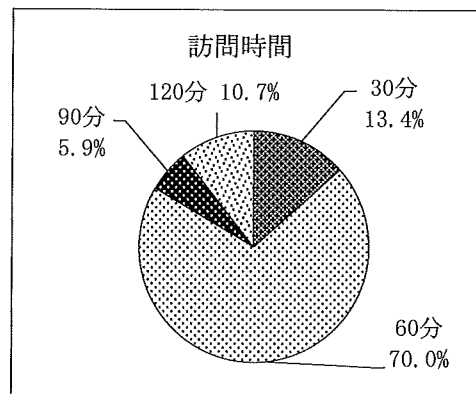
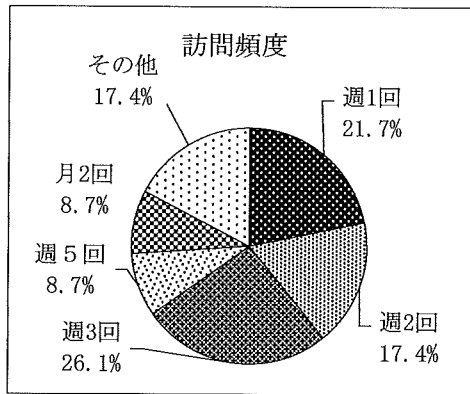
要介護 50名



要支援 6名



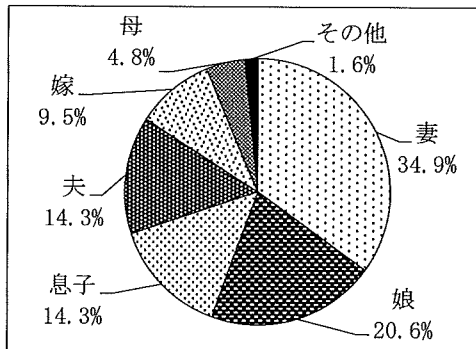
医療保険 23名



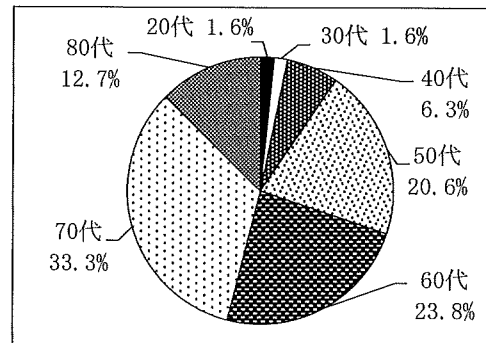
医療保険では悪性腫瘍のターミナル期や褥瘡処置などに頻回な訪問対応をするため、一人あたりの月平均利用回数が介護保険に比べ多くなりました。介護保険では、訪問時間30分未満が急増し、28.1%でした。(30年度16.5%)

(8) 介護者状況

対象 63名



対象 63名



独居 15名 日中のみ独居 7名 グループホーム入居 1名

配偶者介護が50%、子どもの介護が35%、嫁9.5%でした。老々介護も相変わらず高い状況です。ご夫婦への訪問も3件ありました。最終的に施設入所となるケースも7件と多くみられました。

独居への訪問が15名と増加しています。(30年度10名)

(9) 月別入退院数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計 (延)
入院	9	5	4	6	6	4	5	8	5	1	5	3	61
退院	8	4	6	3	9	5	6	5	9	1	3	5	64

(30年度入院 57件、退院 54件)

入退院が多いと病院、医師、ケアマネジャー等との連携（文書や電話での連絡、面談など）も多く必要となり、また、家族との調整も頻回となります。

(10) 利用終了者の転帰 対象 35名

死亡		入院	入所	転居	その他	合計
20	入院死亡 9	1	7	2	5	35
	在宅死亡 11					

ターミナルケア加算算定数 11件

死亡のうち、在宅での死亡率は55.0%でした。

訪問看護や在宅医の利用により、在宅での看取りが可能となっています。

3 他機関との連携

情報の共有化、他機関との業務協働のためケアマネジャー、医師、サービス事業所、病院等との連携を頻回に行ない、月平均167件となりました。その他、サービス担当者会議、退院前カンファレンス等年間57回の会議に参加しました。

元年度の連携医（訪問看護指示書の交付医師）は、開業医16機関（利用者45名）、病院7機関（利用者37名）で、44名の医師より指示をいただきました。ケアマネジャーは、24事業所36名と連携しました。

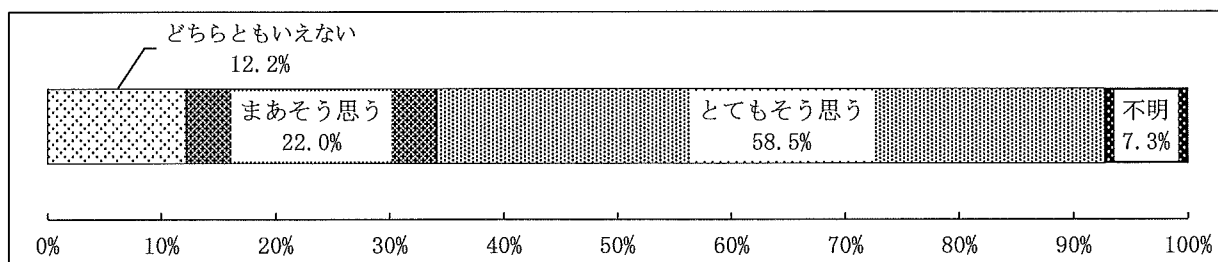
刈谷豊田総合病院訪問看護ステーション連絡会（年1回）・公立西知多総合病院看連携会議（1回）に参加しました。また、公立西知多総合病院とは、退院後の同行訪問を行い、情報の共有等看護連携を図りました。

大府市の「おぶちゃん連絡帳」、東海市の「へいしゅうくんネットワーク」、東浦町の「おだいちゃんネットワーク」のネットワークツールを積極的に活用しました。

4 利用者及び家族へのアンケート

元年度は4～9月に利用実績のある66名を対象に、利用者宅へ郵送し、無記名でアンケートを実施しました。回収率62.1%

【設問19】 総合評価：全体についてのサービス満足度



総合的に、高い評価をいただきました。

5 職員研修状況

刈谷豊田総合病院呼吸器科研修	刈谷市開催	4回	10名
大府市多職種連携研修	大府市開催	1回	2名
あいち小児保健医療総合センター	大府市開催	1回	1名
公立西知多病院緩和ケア研修	東海市開催	1回	1名

6 大府市在宅医療・介護連携推進事業

大府市在宅医療・介護連携推進会委員（任期 令和4年3月31日）として参加しました。

4. グループホーム・ルミナス大府

1 各月末入居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
女性	6	6	6	6	6	6	5	6	6	6	5	6
合計	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	8	9

1月平均利用者 8.8名（定員9名）で安定していました。

2 入居者年齢

年齢	～75	76～80	81～85	86～90	91～
人数	1	0	3	5	0

平均年齢 86.0歳（年度末現在入所者）

3 介護度別

介護度	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
人数	0	2	2	1	3	1

平均介護度 2.89（年度末現在入所者）

4 行事

	活動内容
4月	花見…桜見物（健康の森公園）
5月	花まつり（常福寺） 阿久比町芸能祭（詩吟披露）
7月	七夕
8月	ルミナス夏まつり
9月	グループホーム敬老会 ルミナス敬老会
10月	ルミナス芸能祭
11月	家族同伴日帰りバス旅行
12月	吉田まちづくり協議会餅つき ルミナスクリスマス会 グループホームクリスマス会（ケーキ作り） グループホーム餅つき（鏡もち作り）
1月	ルミナスもちつき大会

2月	節分（豆まき・恵方巻き作り） 吉田まちづくり協議会芸能祭（吉田公民館にて詩吟披露）
3月	おこしもの作り ランチバイキング（ホーム内にて）
その他	誕生会（入居者毎に実施） オカリナボランティア・詩吟ボランティア・傾聴ボランティア （各月1回）

5 その他

- ① ホーム内勉強会
 - ・「認知症サポーター養成講座」
 - 講師 大府市高齢者相談支援センター 安居氏
 - 参加者 家族、運営推進委員、グループホーム職員
 - ・スタッフ会議時（毎月） 看護師・リーダー研修受講者を中心とした勉強会
- ② 実習受入
 - 藤田医科大学 31名（5月～6月）
- ③ 運営推進委員会（5月・7月・9月・11月・1月、3月のみ手紙での報告）
- ④ 家族懇談会（4月・7月・10月・1月）
- ⑤ 防災訓練 老健と合同で10月に1回
 - 単独で開催 1月・2月・3月
 - （夜間台所より出火想定で消火・通報・避難誘導）
- ⑥ 外部評価 2月に実施
 - 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント（聞き取り調査のみ）

5. 認知症介護研究・研修大府センター

1 認知症介護に関する研究事業

認知症高齢者の生活機能や行動等の特性、若年性認知症に対する社会的な支援等に関する研究、認知症ケアレジストリ研究等を実施しています。

令和元年度においては、老人保健健康増進等事業による研究や運営事業費による研究のほか、関係機関・団体の研究補助金・助成金による研究を行うとともに、平成30年度に実施した研究の成果を広く介護関係者等に情報発信しました。

(1) 研究事業の実施状況

①令和元年度 老人保健健康増進等事業による研究

ア、企業での就労が困難になった若年性認知症の人への支援のあり方に関する調査研究

- ・就労継続支援事業所等を対象にアンケート調査を実施
- ・就労継続支援事業所職員等に対するセミナーを開催
福岡県（令和元年11月13日）、京都府（令和元年11月22日）、
東京都（令和元年12月12日）
- ・都道府県担当者に対して、支援コーディネーターの配置等に関するアンケート調査を実施（平成28年度から継続）
- ・都道府県担当者へのアンケート調査を実施
- ・若年性認知症の人の、企業における就労継続から障害福祉サービスの利用、さらには介護保険サービスへの移行というソフトランディングの流れや、これらに関わる支援コーディネーターの役割を示した手引書を作成

イ、若年性認知症の人がより良い状態になる力を引き出せるための就労継続と日常生活環境を考える研究事業

- ・支援コーディネーター・行政担当者へのインタビュー調査を実施
- ・支援コーディネーター、推進員、地域包括の管理者を対象にアンケート調査を実施
- ・企業関係者等を対象に研修会を開催
愛知県（令和元年10月21日）、石川県（令和元年11月1日）
- ・若年性認知症の従業員がいる企業を対象に訪問調査を実施
- ・企業を対象とした、若年性認知症の従業員への支援のポイントや連携先、支援コーディネーターの役割や支援内容等を示したリーフレットを作成

②令和元年度 運営事業費による研究

ア、地域住民運営の通いの場における認知症に対する対応力の向上に関する研究（継続）

イ、地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手

段的ADLの関連に関する研究(継続)

ウ、認知症介護指導者の地域活動に関する実態調査研究(継続)

エ、ケア現場における課題解決力の向上に関する研究

オ、認知症ケアにおけるスーパービジョン実践研修(モデル研修)の有効性に関する研究

カ、認知症ケアレジストリ研究(BPSDスポット調査)(継続)

③文部科学省科学研究費補助金による研究

ア、感情表現の強さが制御された音声刺激による認知症患者の感情認知機能の評価(継続)

イ、介護現場での認知症ケアの質向上に向けた多職種連携における心理職の役割の明確化の研究(継続)

④日本医療研究開発機構(AMED)認知症研究開発事業による研究

ア、適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究(認知症ケアの標準化に関する研究)(継続)

イ、若年性認知症の有病率・生活実態把握と多元的データ共有システムの開発(わが国の若年性認知症の生活実態の分析)(継続)

⑤日本ソーシャルワーク学会研究奨励費による研究

ア、高齢者介護現場における身体拘束のとらえ方に関する検討(継続)

⑥あいちオレンジタウン構想事業による研究

ア、認知症介護指導者の活用強化に関する検討(継続)

⑦公益財団法人三菱財団研究助成事業

ア、震災時における認知症の人と家族への介護事業所の支援力向上プログラム

⑧日本社会福祉弘済会福祉助成事業

ア、介護サービス提供時間中における認知症の人の社会参加活動に関する実態調査

(2)平成30年度の研究成果報告

平成30年度に実施した研究の成果について、広く介護関係者等に情報発信するため、令和元年7月3日(水)に愛知県産業労働センター(ウインクあいち)において認知症ケアセミナー(第17回)を開催し、8つの研究課題について成果報告しました。当日は、介護関係者等、約350名の参加がありました。

また、令和元年11月19日(火)に東京都「有楽町朝日ホール」で開催された認

知症介護研究・研修3センター合同の研究成果報告会（担当：東京センター）に参加し、研究成果を報告しました。

2 認知症介護に関する研修事業

(1) 認知症介護指導者養成研修事業

認知症介護実践研修の企画・立案に参画し、講義、演習、実習を行うことができる能力を身に付けるとともに、介護保険施設、事業所等における介護の質の改善について指導することができる者を養成することを目的として、平成13年度から認知症介護指導者養成研修を毎年実施しており、令和元年度は次により開催しました。

なお、令和元年度末現在で879名の認知症介護指導者を養成しました。

①研修日程

第1回 令和元年 6月 3日（月）～令和元年 8月 2日（金）

第2回 令和元年 8月 26日（月）～令和元年10月 25日（金）

第3回 令和元年12月 2日（月）～令和2年 2月 7日（金）

②研修対象地域

東海・甲信・北陸・近畿地区の15府県と7指定都市

③研修受講者数

・研修1回目 9名 ・2回目 15名 ・3回目 15名 年間計 39名
（事業計画 50名 実績 39名 計画との差 △11名）

(2) 認知症介護指導者に対するフォローアップ研修事業

認知症介護指導者を対象に、日々進歩している最新の認知症介護技術や知識を一定期間ごとに伝達し、第一線の介護従事者が最新の認知症介護技術を的確に修得できる体制を整えることを目的として、平成16年度から認知症介護指導者フォローアップ研修を毎年実施しており、令和元年度は次により開催しました。

なお、令和元年度末現在で389名（延べ人数）の認知症介護指導者がフォローアップ研修を受講しました。

①研修日程

第1回 令和元年11月 8日（金）～令和元年11月12日（火）

※応募者が少なく中止となりました

第2回 令和2年 2月17日（月）～令和2年 2月21日（金）

②研修受講者数

・1回目 0名 ・2回目 17名 年間計 17名
（事業計画 30名 実績 17名 計画との差 △13名）

- (3) パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング（DCM）法研修事業
平成15年度から平成17年度まで「老人保健健康増進等事業」として、英国ブラッドフォード大学で開発されたケアの質を観察・評価する「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング（DCM）法」の有用性と普及の研究事業を実施しました。
- その成果をもとに、日本における普及活動の拠点として、毎年「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング（DCM）法研修」を実施しており、令和元年度は次により開催しました。
- なお、令和元年度末現在で1,780名が基礎コースを、また、139名が上級コースを修了しました。

○基礎コース

①研修日程

第2回 令和元年 9月26日（木）～令和元年 9月28日（土）

第4回 令和2年 3月 5日（木）～令和2年 3月 7日（土）

※新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました

※第1・3回の研修については、大府センターの共催で特定非営利活動法人シルバー総合研究所が開催。

②研修受講者数

・センター開催：28名

※特定非営利活動法人シルバー総合研究所開催：54名

○上級コース

①研修日程

令和元年11月21日（木）～令和元年11月23日（土）

②研修受講者数

・センター開催：16名

3 講演会・シンポジウム等の開催

(1) 認知症フォーラム

介護関係者をはじめ広く一般の方々にも「認知症」について知っていただくための取り組みとして、令和2年3月11日（水）に認知症フォーラム（第15回）を愛知県産業労働センター（ウインクあいち）にて計画しましたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。

(2) 認知症カフェセミナー

愛知県社会福祉協議会事業として、令和元年10月15日（火）に大府市役所で開催

し、84名の参加がありました。

(3) あいちオレンジタウン構想に基づく研修会

あいちオレンジタウン構想におけるアクションプランとして、認知症介護指導者活用による認知症対応力向上研修会を開催。

①地域住民向け 令和元年10月24日 大府市役所 参加者25名

②介護保険サービス事業所向け 令和2年1月22日 大府市役所 参加者66名

4 広報活動への取り組み

大府センターが発足して19年が経過しました。令和7年(2025)年には認知症高齢者が700万人に達するとの推計値が出されている状況から、これまでの研究業績あるいは研修内容等の情報を、介護関係者のみへの提供に留まらず、認知症について一般の方々にも理解していただくために、令和元年度においても認知症ケアセミナー(研究報告会)を開催するとともに、それらの資料を認知症介護情報ネットワーク(DCネット)を通じて、あるいは認知症介護指導者大府ネットワーク、日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークとの連携により、認知症介護に関する情報発信に取り組みました。

5 認知症介護指導者大府ネットワーク等との連携

大府センターの認知症介護指導者養成研修修了生による自主的組織として、平成19年5月に大府ネットワークが設立され、現在5ブロック(北陸・甲信・東海・近畿東・近畿西)において、研究・研修活動や交流会が開催され、認知症介護指導者間の連携が図られています。

また、パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング(DCM)法研修修了生による自主的組織として平成26年7月に日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークが設立され、研究・研修活動や全国規模でのDCMユーザー同士の交流、情報の交換等、連携が図られています。

大府センターが担当する地域(15府県及び7指定都市)で活動する認知症介護指導者の数は、令和元年度末で879名、また、全国で活動するDCM基礎ユーザー及び上級のユーザーの数は、令和元年度末で1,780名となり、両ネットワークとの連携が当センターの運営にとっても重要であることから、令和元年度においてもさらなる連携強化を図りました。

6 身体拘束廃止推進事業

介護保険法の改正や「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関す

る法律」の施行に伴い、「高齢者の尊厳の保持」の視点に立って、虐待防止及び虐待を受けた高齢者の被害の防止や救済を図り、高齢者の権利擁護のための取組を推進することが重要であることから、愛知県においては「身体拘束ゼロ作戦推進会議」が設置され、身体拘束廃止に向けた取り組みが行われています。

この一環として愛知県からの委託を受けて、次の事業を実施しました。

(1) 権利擁護推進員養成研修

介護施設における身体拘束廃止の取り組みをより効果的に推進するため、施設内で指導的立場にある職員を対象に講義・演習・自施設実習を通じて、高齢者虐待防止法の趣旨の理解及び利用者の権利擁護の視点に立った介護に関する実践的手法を習得させ、介護現場での権利擁護のための取り組みを指導する人材養成研修を実施しました。

- ・参加者 介護施設等の施設長・介護主任等
- ・参加人員 46施設 92名
- ・研修期間 3日間（令和元年11月1日・5日・27日）

7 若年性認知症の人やその家族に対する支援事業

大府センターでは若年性認知症の人やその家族に対する支援事業として、平成18年度から研究事業をはじめ各種の取り組みを行っていますが、令和元年度においても次の事業を実施しました。

(1) 全国若年性認知症支援センターの運営

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)及び、これを引き継いだ「認知症施策推進大綱」に基づき、各都道府県・指定都市に配置された若年性認知症支援コーディネーターや相談窓口の職員等に対して、相談支援を実施することや、若年性認知症の人やその家族、企業等を支援するための施策の知識や相談支援のノウハウを習得するための研修会等を実施するとともに、若年性認知症の人を雇用する企業に対しても、若年性認知症の普及・啓発活動を推進しました。

1) 若年性認知症の人やその家族等に対する電話相談支援

- ・若年性認知症の人やその家族等に対する電話相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整
- ・令和元年度の件数 1,296件（4.5件/日）（対前年度 ▲238件）
- ・若年性認知症コールセンターホームページの運営並びに平成30年事業報告書の全国都道府県・市町村及び認知症疾患医療センター等への配布。

2) 若年性認知症支援コーディネーター等に対する相談支援

- ・令和元年度の件数 144件 ※平成30年7月から集計開始

- 3) 若年性認知症支援コーディネーター研修の開催
 - ①初任者研修 令和元年6月12日(水)～13日(木)
 - ・若年性認知症施策担当者 22名
 - ・支援コーディネーター 44名 (28都道府県・指定都市 計66名)
 - ②フォローアップ研修 令和元年9月11日(水)～12日(木)
 - ・若年性認知症施策担当者 30名
 - ・支援コーディネーター 59名 (41都道府県・指定都市 計89名)
- 4) 若年性認知症支援コーディネーターのための情報共有システム運用準備
 - ・システムの構築 ①相談記録システム ②支援事例共有システム
③掲示板機能
 - ※全国共通のシートを使用したPC入力
インターネットによる報告、データベース化 (Webサーバー)
 - ・システム説明会 全国5ヶ所で実施
- 5) その他、若年性認知症の普及・啓発の取り組み

(2) 愛知県若年性認知症総合支援センターの運営

愛知県の委託を受けて、愛知県若年性認知症総合支援センターを運営し、若年性認知症の人がその状態に応じた適切な支援を受けられるよう、次の取り組みを実施しました。

- 1) 電話相談・来所相談(要予約)・訪問相談(要予約)支援
 - ・令和元年度の件数 496件 (対前年度 +102件)
- 2) 若年性認知症自立支援ネットワーク会議の開催
 - ①令和元年7月5日(金) 愛知県自治センター
 - ・医療・介護・福祉・雇用の関係者等
 - ②令和2年2月6日(木) 名古屋市総合社会福祉会館
- 3) 若年性認知症自立支援ネットワーク研修の開催
 - ①支援担当者向け研修
 - ・令和元年7月11日(木) 大府市役所
 - 市町村の認知症施策担当者・地域包括支援センター職員等
 - 午前：初任者研修88名、午後：フォローアップ研修59名参加
 - ②障害者福祉施設向け研修
 - ・令和2年1月22日(水) 大府市役所 33名参加
 - ③若年性認知症普及啓発セミナー(企業向け)
 - ・令和元年10月29日(火) 民間事業所 36名参加

6. 障害者福祉施設サンサン大府

指定就労継続支援（B 型）事業

I. 施設 の 状 況

1 指定障害福祉サービス開始日：平成20年4月1日

平成18年4月1日施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法に改正）に基づく新体系移行に伴い、就労移行支援（一般型）事業、就労継続支援（B型）事業のサービスを開始しました。

平成28年3月31日をもって就労移行支援（一般型）事業を廃止しました。

2 指定障害福祉サービス(事業)名及び利用定員

- ・就労継続支援（B型）事業〔利用定員：39名〕

一般就労が困難な方等へ就労の機会を提供するとともに、生産活動を通じて社会的自立に向けた、知識や能力の向上に必要な福祉サービスを提供します。

3 利用対象者（18歳以上）

- ・身体障がい者（肢体不自由、聴覚・言語、内部障がい）
- ・知的障がい者
- ・精神障がい者（発達障がい者を含む）
- ・難病等対象者

4 サービス提供職員の配置〔1日当たりの平均実利用者数 36.5名〕

※ 常勤換算基準数は、実利用者：職業指導員&生活支援員 = 10：1

事業所名 職 種	職 員 数 (兼務は主とし た職種を優先に 表記)	【 常 勤 換 算 数 】					
		専 従		兼 務		計	基準数
		職員	非常勤	職員	非常勤		
施設長 管理者	1	1.0（職業指導員兼務）					
サービス管理責任者	1	1.0	—	—	—	1.0	1.0
職業指導員	3	1.0	1.1	0.5	—	2.6	3.7
生活支援員	5	2.0	0.5	—	—	2.5	
目標工賃達成指導員	1	—	1.0	—	—	1.0	1.0
事務員	1	—	—	—	—	—	—
送迎運転手	1	—	—	—	—	—	—

5 就労活動種目

項目	品目・製品	摘要	売上	対前年度比
印刷	一般印刷、帳票印刷、封筒印刷、名刺・ハガキ・カード印刷、封入～発送作業 他	官公庁及び民間医療機関、各種団体、個人	14,156 (千円)	118%
下請作業	自動車部品等のシール貼り及び組み付け、ゴムはめ、紙折り、花壇整備 他	大府市内外各事業所の協力、げんきの郷	3,027 (千円)	101%
自主製品	洗顔セット、ポディーセット、ペットボトルオープナー 他	当施設及びイオン東浦、健康の森売店他で販売	351 (千円)	10%
委託販売	・無添加石けん（白雪の詩） ・化粧石けん（さくやうさぎ）		3,729 (千円)	812%
その他	自転車整理（施設外支援） 他	大府市身障者協会（共和駅）	911 (千円)	162%
計			22,174 (千円)	113%

・平成25年4月1日「障害者優先調達推進法」が施行され、平成30年度の全国においての官公需（国、都道府県、市町村等）の調達実績の件数は約14万件、金額は約178億円でした。

令和元年度の当施設の契約件数は77件、契約金額は約772万円、前年度比で件数は5件の増（7%増）、金額は約101万円の増（15%増）でした。

（売上全体の約35%になります。）

・令和元年度の敬老会記念品が石けん等であったため、対前年度比において、自主製品と委託販売に大きな差異が生じました。

6 年間行事

月	行事等
4	お花見（於大公園）の予定だったが雨天のため施設内レクに変更
5	—
6	—
7	イオン東浦イエローレシートキャンペーン
8	ルミナス夏祭り出店
9	大府市福祉・健康フェア、障害者就職面接会（1名参加）
10	イオン東浦イエローレシートキャンペーン、上記面接会後の職場実習（1名参加）、法人合同防災訓練（2回）

11	名フィル福祉コンサート鑑賞
12	年末食事会〔サポートイン南知多（福祉旅館）にて〕
1	お抹茶の会
2	施設外企業実習（2名参加）〔高末粥にて〕
3	—

7 各種会議（毎月実施）

- ・工賃評価委員会… 利用者工賃の評価、見直し 他。
- ・指導委員会… 利用者の援助、支援内容の検討 他。
- ・職員会議… 施設運営と経営改善の協議 他。

Ⅱ. 利用者の状況

1 定員及び現員（登録者）

定員	現員（登録者）
39	49

2-1 月別現員数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
初日の現員数	44	45	48	48	49	49	49	50	50	50	49	49
入所(通所)数	1	3		1			1					
退所数										1		
月末の現員数	45	48	48	49	49	49	50	50	50	49	49	49

- ・退所者1名は、就労継続支援A型施設へ。

2-2 相談・見学、実習者の延べ人数

※ 相談・実習の（ ）の数値は利用に結びついた方

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談・見学	3	1	2	0	1	0	0	1	1	0	0	2	11
実習	2(2)	1(1)	1(1)	0	0	0	2(2)	1	0	0	0	1	8(6)

3 障害者手帳の内訳

(1) - 1 身体障害者手帳

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
現員（登録者）	15（2）	6（3）	6（2）	0	0	1	28（7）

・（ ）の数値は知的障がいがある方

(1) - 2 上記の内訳

障害別	肢体	視覚	聴覚	内部	計
現員（登録者）	24	2	0	2	28

(2) 療育手帳

障害等級	A	B	C	計
現員（登録者）	7（2）	9（1）	9（4）	25（7）

・（ ）の数値は身体障がいがある方

(3) 精神障害者保健福祉手帳

障害等級	1級	2級	3級	計
現員（登録者）	0	3	0	3

(4) 難病

脊髄小脳変性症、網膜色素変性症、球脊髄性筋萎縮症、筋緊張性ジストロフィー、ギラン・バレー症候群、パーキンソン病の6名。

（身体障がい4名、身体障がいと知的障がいの重複2名）

4 性別・年齢

区分 性別		年 代 別							計（比率）
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	
現 員 （登録者）	男	2	9	3	10	6	5	1	36（73%）
	女	2	2	3	2	2	1	1	13（27%）
	計	4	11	6	12	8	6	2	49（100%）

5 市町別

市町	人数	市町	人数
大府市	27	東浦町	8
知多市	6	阿久比町	1
東海市	5		
知立市	1		
常滑市	1	計	49

6 通所方法

通所方法	人数
送迎車利用(市外)	10
〃 (大府駅西)	5
〃 (共和)	3
〃 (長草)	2
〃 (市内その他)	5
自家用車	0
自転車・徒歩・循環バス	14
家族送迎	9
福祉有償運送(他施設)	1
計	49

7 利用の経路

経路	人数
仁至会授産所から継続	5
特別支援学校	12
障がい者相談支援センター	16
各市町	6
名古屋市リハビリテーションセンター	2
障害者生活支援センター(らいふ)	2
障害者就業・生活支援センター(ワーク)	1
他事業所から引き継ぎ	1
本人・家族、その他(東和荘、みず、知人紹介他)	4
計	49

8 一般就労(平成27年度で就労移行支援事業を廃止)

	事務系	軽作業	その他(在宅含む)	計
平成27年度	0	0	1	1
28	0	0	1	1
29	0	0	0	0
30	0	0	0	0
令和元年度	0	0	0	0
計	0	0	2	2

- ・平成20年～27年は就労移行支援事業を実施。

9 利用者工賃向上計画（平均月額）

	28年度	29年度		30年度		R元年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
愛知県	15,849	17,738	15,297	—	16,650	—	集計中
当施設	15,831	15,556	15,861	15,902	15,107	15,964	14,143
(参考：全国)	15,295	—	15,603	—	16,118	—	集計中

- ・ 実績は、①1ヶ月の途中で入退所をした利用者、②1ヶ月の利用が極端に少ない利用者は除いています。

【参考】 実工賃（利用者が1ヶ月に1日でも利用した時の工賃）

	年度別平均						
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
全体の月額（円）	530,303	533,373	518,686	529,625	539,557	624,408	632,613
対象者（人）	35.1	35.3	34.2	34.8	35.2	41.3	48.3
月額（1人当たり）	15,116	15,131	15,181	15,205	15,343	15,107	13,111

- ・ 最高月額：69,890円、最低月額：270円（特別手当を含む）

10 利用率

※ 定員39名に対する1日当たりの利用率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
平成29年度	71.5	73.1	73.8	72.1	67.9	71.3	66.9	71.0	72.8	69.7	74.9	77.2	71.9%
平成30年度	79.2	82.8	83.6	84.4	81.0	88.7	87.2	88.2	88.7	87.7	86.4	89.2	85.6%
令和元年度	92.6	89.2	91.3	93.8	89.0	91.5	97.9	100.8	98.2	94.1	91.0	92.1	93.5%

- ・ 利用率が上がった要因は、新規利用者が6名いたことです。
（参考：福祉医療機構（WAM）データより、平成27年度の全国就労移行支援・継続支援事業所の平均定員は31.6名、平均利用率は80.5%。）

Ⅲ. その他

1 体験学習等の受け入れ

- ・ 放課後等デイわかばの杜・大府 見学、就労体験（4月 26名）
- ・ // （7月 14名）
- ・ もちのき特別支援学校（中等部） 職場体験（6月 4名）
- ・ // （高等部） 就労体験（10月 10名）

- ・ // // (12月 10名)
- ・ // // (1月 6名)
- ・ // 見 学 (12月 保護者8名)

2 施設外作業、施設外支援

- ・ 施設外作業【継続】①株式会社げんきの郷にて、花壇の草取り・水やり等の作業を実施しました。
(平成24年6月1日から取り組み、年間158日間実施)
- ②げんきの郷に出荷している個人事業者の鉢植えの水やり等の作業を実施しました。
(平成30年2月8日から取り組み、年間52日間実施)
- ③認知症介護研究・研修大府センターの花壇の草取り・水やり等の作業を実施しました。
(平成30年6月1日から取り組み、年間41日間実施)
- 【新規】①認知症介護研究・研修大府センターの居室清掃・ベッドメイクを実施しました。
(令和元年7月10日から取り組み、年間55日間実施)
- ②ルミナス大府(老健)の清掃作業を実施しました。
(令和2年2月1日から取り組み、年間23日間実施)
- ・ 施設外支援【継続】共和駅駐輪場の自転車整理を実施しました。
(平成20年9月1日から取り組み、年間70日間実施)

